



魯西史志

休致百文

洋学文庫
文庫 8
B 90

全
壹冊



魯西亞志



桂川甫周 国瑞譯

名義

魯西亞ハ、^シ流古沙^ル馬^高亞^ニ称^セル^西也、
 其^前年^スラ^ホニ^ヤヨ、^カ翁^カ里^亜國^ノ
 三人^ノ諸^侯也、其^名を^セク^ス、^レク^ス、^ロシ^ス、
 シ^コロ^シイ、^翁加^里亞^ノ國^ノ地、
 其^ノ國^トス^ル、^昂今^カ波^赤米^亞、^入ル^ニ泥^ニ
 亞^國ノ^地波^羅泥^亞魯^西亞^ナリ、^ロシ^ス、^乃

未亞ふ祿するが久し、今此赤白黒の三
州と合きて、單に魯西亜と祿するハ、年
曆より七百二十一年、享保六年より始り、帝跡を
祿せし、ヒイトルといふ、帝よりなり。

幅負

魯西亜の存玉を、長さ六百餘里、幅も
大極相同し、近東亞細亞洲の韃靼の
北邊を侵孫し、漸くは廣大の地となりて、
往昔より幅負、幾倍たりとす。

其上を以、スウエーデン雪障、デン亜の地と併せたり、
その他は廣大陸地あり、世界に是は衝
を争ふべき、必かりし。

海河

歐羅巴洲の宮海、十名あり、其内、五名
魯西亜の境、内國より、外國より、内國より、外國より、
所産、トセイ海一名、ハル伯、セフ明、スウエー宮海、デン雪障、
昨

國の海灣

ウイリ白、ラセ海、ラフ嵐、ラフ皮、ランド亞の海灣をり。

氷海 アイスゼー

北極界あり

黒海 スバルデゼー

度ル格の境あり

北高海

百尔西亜の境あり

大し外大河あり

厄布^ラ尔^ア河^ル一名^カテ^キ子^チノ^ノフル^ル河^カリク^タウ^ウエ^ン

波羅泥^ボ亜^ロの^ニ間^ヤあり其源ハスモ^スー^モレン^スエ^ノの

北ウラル^ウル^ラコン^コス^コヤ^コの池^チ沃^クの^ノ岨^ノより^ノ發^シて^テ南^ニ流^ス中^ニ黒^ノ海^ニ入^ル河口^ノ廣^クシ^リ其^ノ中^ニ多^ク小^ノ河^ニあり^テ名^ニ林^ノ木^ノ茂^ク盛^リ也^ノ河^ノの

長^ク二十^ニ里^ノ餘^{アリ}寫^シ瀑^ノ布^ノの^ノ如^クなる

亦^ト十三^ニ里^ノあり^テ船^ヲを^ト運^ビて^ト可^クなる

國^トと^シ度^ル格^トと^シ此^ノ邊^ニあり^テ教^會合^戰あり^シ

勿^ウ尔^ラ瓦^カ河^カ其^ノ源^ヲ池^ノ沃^クより^テ出^ル厄^チ布^フ尔^ル河^カと

同^ク西^ニより^テ東^ニに^テ流^ス魯^ス西^ニ亞^ニ中^ニを^テ經^ルて

亞^カ私^ス太^タ蠟^ラ甘^{カン}の^ノ地^ニより^テ小^ノ高^ノ海^ニに^テ注^スぐ^ル河

水 氷^ノ岳^ニあり^テ大^ニ漲^リス^ル時^ニは^シ時^ニテ^ル瓦^ノの^ノ地^ニより

貨^ノ物^トと^シ大^ノ船^ヲを^テ積^ミて^テ亞^カ私^ス太^タ蠟^ラ甘^{カン}に^テ運^ビ送^スる

た^タ乃^ノ河^カ一名^トド^ン河^カ其^ノ源^ハレ^サレ^ノ地^ニより^テ出^ル

北、タツタンと強く、迂曲して、墨何的湖より、
黒海に入流、此海底沙多く水濁し、亦其地
比、水の漲、葦草多し、勿尔瓦河は、たかく
その所は、大船を用ひし、禮物を運送す、
杜六傘河、其源一あり、アルカンの地は
玉り、二流あり、白海は、広く、

阿比河、小流、海は、広く、其深く、底は、皆沙、
魯西亜より、単は、大河と稱する、其河
を指し、たかく、カル、菓奇、ヘレワウの地より、
廿莫

て、河の中は、多く、多あり、

本國より、帝跡を、稱せし、中、一世、セイトルニ
より、帝ヲ子カ湖、ラトカ湖、の、百九十七里、
尾、間より、ね通し、を、鑿、開き、河
道と、あり、高、船の、通ひ、便、なり、り、其、世の
利を、奪き、行へり、其、徳、大、なり、り、
河、流と、いふ、永、世、傳、え、る、島、なる、なり、

隣 家

北を、雪、
西、
波、
泥、
西、南、
度、
格、

東を大タツタニと境と接、其時亞細亞の
北西と吞併せしより、支那、百尔西亞、ことと界
を交ゆ。

風

此邦幅員廣大にして、其百里に直るは、其
氣候の之を暖、其地の肥瘠も亦一極ならず、此
は其大較を挙ぐ。

西の方、波羅泥要、境する地と最も暖なり
とて、米穀とて厚此地、凡二十か穀の類、千餘

品、通國の糧を供するの事ならず、且多くを鄰
乃法よと輸ふ。

地方の地を氣候極め、冷よ、温を異常地
も亦甚深、温なり、多くを森林、池沼の事、
そり野、穀をばらばら、穀一、其人を多く、江海

より、漁獵を事し、高産もはとも、
たり、又ウールラスレ、チイル、ルテルス、白狐、玄狐、

サベルス、狐に似て、小きたう、毛皮ヘルメレー子龍の、視文を付けて、美し、タウヒ

を産す、此行字より、草と、畜畜、最上好なり。

を遠くついで、存ぶうを、極つるれこも、主人
主人せむ。

木綿、蚕絲を、最多く、極く、種々の織物
を製して、交易の料とす。

此邦、交易中一の貨品を、皮革、牛皮、醃肉、牛
脂、蠟、燭、苧、麻、蜜、蠟、多かり、之れとす。

莫大の交易と為す。
魯、西、西の併せある亦、歎羅巴、西、細、西、二大湖
より、今も、く、り、部、こ、と、

第一、インケルマランド、礼勿泥、西、旧、雪、降、西
の地なり、今の魯、西、併せ、る、際

第二、西魯、西、^{ウエスト}、昂、本、國、の、西、方、一、分の、總、統、之、
^{オースト}

第三、東魯、西、^{ラール}、昂、本、國、の、東、一、分の、物、統、之、
^{プラント}

第四魯、西、^{ラール}、西、^{プラント}、鞣、靴、
右五部之内、縣府と建、酋、長、と、置、れ、十
二、処、

一、諾、勿、尾、湖、^的、西、ニ、アル、カ、ン、ゲ、ル、三、漠、斯、可、烏、

四、ニスノウゴロト。五、スモトレンスコ、六、キウラウ、
七、ビイロゴロト、八、ウヲロ子ス、并アソウ、
九、^{マス}私大^{タラカ}蠟耳、十、オレンブルグ。十一、加山、
十二、シヘリイ、

インゲルマシラント、一名インゲルバルラントの地をヒ
ニラントの海濱と、テドカ湖、よのりあり、幅
莫六十餘里、地頗多、饒りして、獸畜も
又盛なり、百五十餘年前ハ魯西亜のよりり
し、中一の雪降^{ハル}要は後ひふ七百二年 元禄十
九年

より再い魯西亜の併せらる、翌年、け地、初
つ、王城を建起す、^ヘテル帝の建ら連
繋る都なるゆゑ、^ヘテルスベルグト名はく、
ヘテルスベルグ、インゲルマシラントのそ、縣
に、魯西亜第一の宏麗繁昌の地なり
北極六十度、^{ハツロ}西^{エー}鉄^ラ島を離る事四十度
王城の廣サ方二里をり、^テ内^ノ大^ノ度
ハふ餘るる、^本城とハ、^ハが^ニソ^ノ河の内
よ、^ニソ^ノの^名を^と合^せく、^長あ^ま、^六後^ノ月 ロクカク

築をうり、才一の島をいせ、セントランドに
對岸の陸地、外郭を構へ、内の上、テ
ル帝の肖像を安ん、物石垣、さすサニ大條
めり、^{カラカ子}續福洞の大鏡を、隙を、列收、城内
ふを、宝塚を、建起、えん、亮、右里亞必良、面
ラレシニ、なる、その、造、り、なり、屋、瓦を、皆
金貼、なり、塙、上、自、唱、鏡、を、掛、く、其、時、に
の、氏、々、々、々、時、と、報、し、又、自、音、響、と、奏、
し、これ、を、和、樂、の、アムスラルタム、の、造、り、を、

なり、その地、湯、梅、丸、園、創、建、美、と、極、め、講、
言、禮、の、及、り、さ、る、を、な、り、是、を、り、代、の、帝
の、廟、後、に、げ、り、し、定、ら、ま、し、け、る、は、波、實
塙、の、七、百、の、十、六、年、^{宝曆}、^{二年}、^{二月}、火、を、く、る、事、^中、^景
失、な、り、又、學、校、茶、屋、と、設、け、右、北、斎、を、さ、す
む、茶、屋、の、を、得、帝、の、用、茶、を、勿、論、外、は、吳、邦、の
珍、物、の、品、を、ま、す、を、備、へ、り、は、と、り、ふ、る、り、く、美、を
い、ふ、支、那、の、磁、器、と、ま、し、け、り、收、め、貯、め、第、二、の
嶋、を、ア、ト、ミ、テ、リ、ツ、名、と、し、五、稜、又、廓、と、構、へ、り、

畜産色亦他乃諸邦に減せし、但羊毛モ色ハ
 高下品なり、林木を檜モミ檜カシバ標最多一杉ノ
 土人多く、木のこよて、屋を造る、西洋の屋
 用又磚作りちを用ふ、好ま殊ニ
 に木のこを用ふ、ツツとソノ
 樹々、材を伐開き、田畑となり、
 交易の貨物を、
 大麻、苧麻、チヤン 瀝青、エルキチヤン 瀉乳、ホツト 牛皮
 草等なり

西魯西亞

此地多々二十三日と為り、所謂
 漠都モ可烏カウ、チウエル、ロストウ、ヤレスラウ
 ヒーローラーセロシユスクル、ヲ羅得ロシ株メル尔
 以上七道中、チあり
 フスコウ、ヒールヌキ、ニススコウ、スモレンスコ
 セヘリイ、ケセルニコウ、ユクライイ子
 以上七道、西方あり、
 諾勿瓦ホココ的ホ亞、カルガホル、トウ亦イフ兼
 以上三道、北方あり

縛羅答

ニスノホゴロト

モルトア

以上三道 東方よりあり

ウラロラン レサン ホル

以上三道 南方よりあり

漠新可烏 魯 西亞の中よりあり

縣と昂ムスコウニツムスクワ河辺よりあり 北

極六十五度 三十六分の地なりよ二百年の

ころ魯 西亞王の居城と云 預羅巴第一の

大城なり 周圍十餘里 居人凡十五萬

其内と四ツは多し 各石垣と築き 溝とほ

つとく 固めこたると 皆赤起りなり 柳樹と

三層の城柵と建たり 溝とを煉り

て築 固めたり 又園圃と設け 老樹多し

とあり 彩色多く 噴水と造り

て 京殿と依く 又六の寺あり 才一とリホルニ

いふ宝塔九座 皆鍍金の銅屋あり 内戸

之れ鍍金の鉄板とあり 故より日光は映

し 光輝燦爛とて 眼を射る 中へ

と、シントミレル、ソッ、魯西亜王の、廟所、
并、三の、諸王、后妃の、まゝなり、此、ひと、こゝまへ
と、ビン子、ンスクリト、ソッ、内、街と、ソッ、決、たり、
并、三の、橋と、キヌ、イゴロト、ソッ、又、支那、街と
稱、は、四、國、ハ、石、垣、こゝまへ、まゝなり、
方形の、敵、橋と、較、多、建、列、れ、屋、家、ハ、皆
瓦、石、と、ま、は、り、御、米、せり、又、石、橋と、加、ふ、こ
ビン子、ンスター、ハ、は、ま、と、その、橋、乃、築、造、極、く
精、切、と、は、り、こゝまへ、内、武、庫、学、院、書、肆、

茶、房、と、設、く、茶、品、を、之、れ、玉、石、等、を、用、ひ
敵、名、茶、と、は、り、交、易、の、大、擧、六、十、餘、示
專、支、那、の、貨、物、を、取、捌、く、故、に、支、那、街、と
稱、は、り、た、り、并、三、を、ベルコロト、ソッ、又、白、街、と
稱、は、り、周、圍、白、石、を、ま、り、つ、く、石、垣、と、造、り、
せ、り、ゆ、ゑ、は、名、は、り、ま、り、た、り、城、の、形、半、月、の
形、の、と、く、其、内、は、百、工、商、賣、備、を、ら、さ、り、あ、か
く、又、木、匠、を、り、木、を、こ、て、屋、と、造、る、事、を、習、ふ
者、あり、ゆ、ゑ、既、説、を、纂、す、る、外、其、他、旅、令、亦、

亦有け街より醸するヒイル酒の名を
よ味を味なり第四ハセメライコロトニ
地を築き立二ツの石門あり度毎例重の
学はけ知屋室以本を有なり時火災者
テウエル勿尔瓦河源あり男
今を諾勿瓦的亜の示傳したるトル帝の
テウエルサセナあのを製する
今を黒海小字海より窩く示徳海に
を通るを

ロストウ、莫斯科島の北あり
センスラウ、勿尔瓦河岸あり

ヒイロラ、セロ、勿尔瓦河の
系長あり、諾勿瓦的亜に属す

シユスダル、亦勿尔瓦河にあり
縛羅均棟、勿尔瓦才カ河の

テスコウ、礼勿泥亞、
今莫斯科島に属す

永正
元年、本國に属す

ヒイルスキ、波羅泥亜の境あり

シスコウ、リタウコンノ境あり

スモウレンスコ、リタウーエニノ境に、本國

波羅泥西亞ニ此地とありて、本國

戦り、あ六百八十二年、貞享より、本國

属一縣府と建酋長と置

セヘリイ、赤ク^リタウーエニの境あり

ケセルニコウ、波羅泥亜の界あり

ユクライ子、波羅泥亜の地あり、本國

ノ後

諾勿瓦的亜、北雪降亜に接し、カ

兩湖のあり、カ縣府を建酋長と置

上傍の列郡を不置せむ

カルカボル、白海、諾勿瓦的亜に附屬

杜亦兼、杜勿兼河の白海に注ぎ、河口の

にあり、今アルカレケルに縣府と建

縛羅答、アルカケルに附屬

ニスノホゴロトシカ河の勿^カ尔尾^カ河に合流す

有、今別は酋長を置

モルトア、トニラカ、あ河のりあり

ホル、韃靼、地あり、其地甚廣大なり

レサン、南小韃靼、地極めくを饒なり

ウラロラ、韃靼の界あり

東魯西亞、此地別て七道なり、不潔

ノウセン、トソラ、セレンスキ、白^{ヘル}米^{シヤ}オ

ユストユク、ウイアトスキ、ケセシミワシ

メハセン、白海氷海、地極めく不毛の地

但林木多し

トソラ、地氷海、際し、ワイカツト、の海峡

地極めく多くを茂ありて、人居ま

進たし、氣候極めく寒く、河海凍固年

解、アルカニケル、附屬也

マレンスキ、其地多くを峻山、茂林、皮革と

て賦税を免は

白^{ヘル}米^{シヤ}、シヘリイ、境と接は、漠、可鳥

を去る、二百三十里許、海と接して、地

す、是と以て生産をたゞの二万人
エストユク、杜亦傘、河岸あり、此地も亦多
く茂林のこなり、杜亦傘好、河岸の
人居あり、

ウイアトスキ、カサンは附屬

ケセルニワシ、韃靼界あり、土人の法も

射をとりて

魯西亞、^{ラララント}糠皮亞、此地の説は、雪津亞の下

に裁ス、此を白海に沿岸魯西亞は屬し

此をあげて、之がアルカケルの酋長に隸し

ムレヤレフコイ、レホリイ、

ラルスコイ、レホリイ、

ヘラモンスコイ、レホリイ、

以上改羅巴洲に係る

魯西亞韃靼

此地を、亞細亞州の北境として、魯西
亞を併せし地なり、

小韃靼、改羅巴度、格は屬す、故に其處

ニルメイス、カサシの西にあり

サセウ、サマラとリム河岸にあり、勿尔尾河の支流なり

キムラ、勿尔尾河岸にあり

フルカル、加^カマ^マの左傍にあり、カサシの西二十里の小邑なり

ニイロイセル

シン^ヒスルスキ

セイ^ヒルサ^ヒジ

サラトフ、皆勿尔尾治岸にあり、小邑なり

アレシベルク、今の魯西亜に、縣府をたてたる

地名、四エハの者なり、此地をカサシと接し、加馬

河、ユラル山、勿尔尾河の源にあり、其水とユ

ヒミソツ、南とハジキリソツ、其土俗ハ、韃子

中の丸鬘袴なり、のなり、其土國、^シ唱^シ呢^ヤ

の服と名、僧帽と頂、うけ、冬を以て、

常にら、鬘と帯と、其の佛經及び回

教と名宗、其今を魯西亜にて、~~其~~布

廣く寺とも多く建ちたり。人
多くユハ河岸に沿ひ住る。獸畜と養
す。牛馬と産業とあり。古くは諸穀蠟皮
草狝、毛多し。俗女多しと愛し。良馬六七匹
をいへり。一妻は樽ふ七百三十五年。享保
女帝。ア十縣府を建ち。酋長と名ふ。又
導を遣して。正教をいれり。古人の倣
おも風俗と。第西にせり。つらりと
ユハユハ河岸あり。あつた。

ホルシンスコイ、
アルセノイ、并にマイリ河あり。木柵とい
て周囲の固りをたす。
コンガル、此地は大方ち要害有。人居の如し
實は天造なり。甚奇觀と見。
此地は大山あり。エラルと名はく。多く玉
石馬腦の多しを産す。
亞細太蠟耳地ハ小高海峽、向尔尾の河
あり。千五百五十四年。天文二年。魯西

併せしむ。其地頗るを饒あり。此地の所味
高貴なり。ヘテル帝、レインムウセルより
葡萄を獲し、種く、今高貴、街に其西
のく、黒海より流るる、水を皆河地より
流し、海に出し、太陽より西より流る、自然より
結成し、今高貴、煉より流る、光明透徹
水晶の如し、其價も高貴なり。其
亦一錠の奇、其を産する、シカ、スコロイト、
此語羊草とニソ、其を抽出、實と結ぶ、其
味は

状宛し、羊の如し、其皮より毛をせん、
且其を侍の草、皆獣の食する如し、其
其を食すと、割き、赤けり、其の如し、味、喉
似、又勿、尔尾河の、其河より流る、河より、ステ
ウルト、不、其を捕る、其子を、加、其、亞、尔、と、ソ、
魯、西、亞、流る、其、イ、タ、リ、ニ、ソ、其、流、邦、其、販、賣
寸、最、廣、大、なる、交、易、なり、一、年、
人、一、人、少く、ハ、万、レ、キ、ス、タ、ー、ル、テ、ル、
の、イ、タ、リ、を、買、する、事、あり、
金、海、の、名、掛、
目、録、未、詳、

亜私大蠟耳別らほ他のそ縣なり勿尔瓦
の河口トルコニソふ島々あり人亦稠密なりそ
都府と周圍一里許多く欵橋と建てる
要害嚴きまして志うも完備美質なり
と美觀と云城門十六固と云石罌と云
以て是北極に十六度亦二分の地と云氣
候極に冷し六月と云も暑と云す
冬も氷凍堅凝して車馬と云
河を凍して一面氷凍堅凝して車馬と云

後よりし常に度尔格亞尔亞泥亞百
尔西亞印度と云人此地に聚て交易と
求ふる百貨彙集し人烟辐湊して是れ
殷富の地なりと云人有塩と云以て交易此
貨物と云なり

カリセン勿尔瓦岸に山あり在り木柵と云
て城と云なり

カラスノイヤル
ワケルノイヤル等も勿尔瓦河岸に有

魯西亞本國より流るる河を既よ上は詳也
此より其は唐の地より有るものと説く

正ニセク河一名正セア河海此河より東三百餘
里にあり北の方北海に流るる中流ルル知
有韃靼語よりケムニシク正セイス エイノ
巴より河名闊大にして秋より至て水涸る時
に廣さ百七十托 和洋の一托ハ
セリスの中 春夏の百
水力漲る發する時を百托より及ぶ河中
魚蝦極て多し意味他方より此に流るる

高負たしとて
レ十河迂曲して急く流る事、三百里小
のり、北海に流る河中は岩石汝礁多く
言険艱にして渡るるがごと、河口の亦
常に氷凍る
アステル河カムシカツトカ此水よりなる シントーマ
峯の東より大東洋に流る
黒龍江一名アムル又アムウル又サカリイニシ
そこの口の東の方にはサカリイニ名あり、遠流

詳也

八百餘里、渠之流も野も、舟を渡す

風七

此地は長閑、大なりを急候と一極なり、寸南の方
并西東のくくを、地味肥沃なり、水の方及び
東山此くくを多く、渡山渡原を、磯礪石を
之、又果実を産するゆゑ、土人の只赤魚
狩獵のくを、産業之寸、水方は地味極めて
流す、一果のうら多くを、舟の流候して

河水つねよあり、地味は積雪たえ、夏は
氣候ハ、わくわくなり、雪消え、地
上泥ち二尺あり、なる家行り、雷を去れ、
多く材木と産する、極山のくくを
荊榛叢雜なり、もの乃くして、絶て喬木は
有り、くくを、畜産は、牛馬羊、
等あり、まゝ、諸穀を産す、年々、小寸、
諸物、精選す、その外、野鳥、野獸、
之れ、合し、種あり、鹿、野羊、
羚羊、二上、

ニテイル地猪 兔狼 黑白熊 玄狐 又狐の背 上中
黒き十文字の者 しのり サルスヘルノレイエニ
ルテルスウエーセルチイス。エーギホルン 水牛 ロフセン
ウエクテニヒサムス 鹿 獣 多し 又多く皮草と
いふもす 熊 中 玄狐 サールスハ けおの名 示と
ち産の皮草ハ ちぬ 楡 比 多し
巴の諸島 級く 價も亦多し
此地をと 本國 して 毛 高 沸 染 して ち地 して
死 罪 の ち ち 殺 闕 して 擄 せし 人 多し

欧羅

数

遣 一 サールスコルテルズ。ウエセルス 等を捕 して
ろ ち ち 食 料 と 毛 給 する ち ち 獣 と 捕
る 定 規 あり ち 首 長 り ち 点 検 して ぬ の
た ち ち ち ち ち 罰 と ち ち ち ち 地 廣 大 なる
た ち ち ち 同 一 ち ち ぬ の 人 毛 多 く ち ち ち
店 ち ち ち ち 産 密 罽 牛 脂 一 一 元 ケル 皮 草
ち ち ち ち ち 支 那 ち ち 韃 靼 及 亞 爾 點 泥 亞
等 此 人 ち 交 易 と ち ち ち

併背

亦何ハ此地と曠漠韃靼ニ移して本國より
 去のミウラるをせよ。近鄰の強盜たる玉くに
 報復して居をりしなり。ベテル帝のラミに
 玉て阿比河より以東大韃靼東北のハテ
 大東洋にうつるを。モくく吞併したるふ。
 其はハハ百餘年前。フートル王の以より。旧の
 ジーりの地を。以て。本國より報復せしなり。
 了まら。た。東に。を侵襲してやまを。
 但東南モニゴル即チ蒙古の地ハ既ハ支那ハ報復

掠

す。つて。ふ。百ハ十九年。元祿二年。其城
 郭をさして。國をたれ。其他の地を悉く
 へトル帝此に。に。國。を。以。又。あ。せ
 百二十六年。享保十年。船司ハ比丹。一リシク。スパー
 ヘルク。ツキリコウ。之人。を。以。て。地。の。國。を。造
 り。て。帝。崩。し。て。後。あ。せ。る。三。十。年。享保十年
 女帝。ア。ナ。の。時。に。つ。り。て。も。あ。ら。ま。て。成。事。
 其。地。の。出。形。も。あ。ら。ま。て。な。り。て。多
 國。を。以。て。支。那。カ。ム。シ。カ。ツ。ト。カ。等。の。地。を。

新程を詳審を以て行路も安穩なり方なり

乱畧

は邦の大酋長ハトホルスキ此府城より居る又
はかりものを上セイスコイニイルツッキニ
居て別ニよかニたり

トホルスキ

上セイスコイ

イルツッキ

左

各別まゝ敷道を以て邦縣と建て置る也

くに酋帥を以て理めしむ其各是地を

若しきもの乃を以て載候

トホルスキ旧シヘリの祖國也魯西亜の東界に
隣る其地の大河をトホル河といふ是を以て
その山に名をたるとす

トホルスキ即ち此の首縣なりトホル河の
北極より北十三は此地なり府城とハ山より
北たるシヘリ此大酋長は地を居るよお百
二十年天文十九年又たてをる城なり入京馬

泥亜の学換あり支那印度等に文別此
高を以て地を去し防冠軍防冠軍
番呼カラ
子護道を以て護す其急に常に此示
は福轉し珍奇の貨物あつたる事
かし地尤殷富して糧食ともいやし
故に人を産業を以てし衣食は
きこふかき

千ユリンスキ、千ユラ河岸あり木柵とて
城とて人居三百餘家

ベレソウ、阿比河の岸ありローイカットの海
湾に臨み木柵を以て城となす

カタリ子ンベルグ、千七百二十三年享保
八年にヘテル市

創て縣府をたし千七百二十六年元文
元年に

帝カタリ十の時たてりて城となして
其他は名付くイセツト河その他は在り時に
河水漲り溢れ患を為す故にあ府
小堤を以てしこれを防此地は山ありは
邦第一の嶺とて穀物人夫を集りて

又其地なる地なり又病院、学院、客店、
多しなり。

ナレイン、河北河岸に在り、北極西十九度の地、
本柵をめぐり、城保土と為り。

トムスキ、トム河の河北河に在り、河口に在り、縣府
をめぐり、酋長をたぐはきより防冠軍を出

して、支那の貨物と、漠州可島に輸又葛
尔莫、奇、互市の大場あり。

クス子スウ、トム河の岸にあり、は地のビール、酒の
名。

むよ好なり、又焼酎と出、極急をいふなり。

元化、ナレイン、北極西十九度の地、
二十六年

嘉保より、トホルスキに屬す、
十六年

ハラバ、河北イルナス、あ河北河あり。

あせる九年、宣永に雪降、西を併せて其地

兵と並に擄掠せる、士卒をシヘリ、不遣は

あせる二十一年、嘉保、まろ其地に多し、は邦

を併せたり。

上ニセイスキ、トホルスキの東にあり、上ニセイ河、

此地の中を流るる海は入る故に地
小名はく、小ハサモイデンなり、あつる九十四年
文禄より、六年中て此方、和蘭人東小より
三年
印度地方に通じる道を求めんて、そ
け地より、さうし、ちり地ハ小極現内は係りて、
極りて、海をたより、上ニセイレ十、あ河の川
にわつる、人相を甚殊矣なり、さハサモ
矮短よりして、醜陋なり、事ハさうして、面
色黒黄、目長く、頬を膨張して、氣は

剛

含み、さうして、夏ハ魚皮と服なり、冬ハ
獸皮をきる、一枚の毛よりて、身にまはたり
婦人も同じ、ち穴の内は住み、常ハ剛人を
とりて、慍胸獸と捕、枯魚獸肉を食は
又一種ハ夷人者、トングシ河邊に居る、極ハ即
トングシニ稱は、人相中をのちさうそ、面は黄
鼻より、目小なり、小兒の内より、面上に黒雲
ハ索をふく皮と纏て、文となす、小兒甚苦
一みそ、啼哭するなり、古を執身にうけ

セーシなるをそはるに高工物ありち人の皆大
経をよししきも佛經あり事と云く氏大極
一夫夫婦或ハ三人及そのそ極は
高小しそ彼等に遷移しそ使りす性
極めて常悍なる常は物肉と増レシイル
の皮と衣とを今皆有るは産する不
乃皮革高負なり以て交易の貨物となす
エニセイヌキ昂此地の首縣なり小極中八分
北地なりエニセイ河辺に在り府城ありせる

三十三年、^{嘉保}に彩遊する事たり、武庫
火薬店あり、唐人の酒懦弱しそ酒と
この産業とつらひ多く、^{徽瘡}と患ふ
カラスーイヤルスキ、エニセイ河辺にあり、馬牛羊
を産るに交易しそ糧食と爲る地肥沃
な建ても、唐人農耕をとりあふ
イルクツキ、^{シベリ}シ海北内此地なりとも、^{廣大な}
ア、^{東ハ直に}大東洋は海ありある、^{甲午四年}
^{西保}本國に從ふ此地は、^{一極}北夷人あり
えま

ヤクテント、シリム、レナ河岸、又沿て居る、本枝と
編て、六角よ小屋を造りて住む、牛馬羊と
養ふ、衣服も本國より似せり、男子は髪を剃
て、女の髪を縮ぬ、狗と養ひて、サベルと捕皮
を賣りて、貨物こたを、性甚程悍洩暴、獸肉
及此蒜を食ひ、肉を何にかきりて、ゆり
隨て食ふ、強氣ニモルメル、千レシを好む
イルクスキ、此物如首縣たり、本國より首長
首長は地は居る、人取子、餘り、大統十六

を設く、本國の高賣ハ常ニ此地ヨリテ
那此貨物と貿易し、す、他邦の貨物
け地、すは、本國より毛格別ニ價ツヤシ
なり、ち人を甚懼し、亦酒を好む

イリムスキ、イリム河岸、又あり、小屋あり、ハ度
地なり、多地、甚豊饒、人民、繁昌して、極
りて、殷富なり、南に大湖あり、ハイカル湖
シリム、多くサールを産出、又湖中に小島多
く、下は温泉あり、此湖中、サール、を産出

アラテ、アニガラ河にあり、本國の人多くまゐりて、
て、旅駝の牛にとりて、大交易をたす。

セリニギンスキ、セレニガ河にあり、あつる六十
年、寛文城郭をたす、支那、韃靼の疆と
かゝるまゝ、倉庫、火薬及蓄械の
庫を建たり、周圍に山あり、穀によ
り、かゝる。

エチンスキ、エハ河岸に在り、流れてセリニカに注
ぐ、東南に支那の境に接し、地は教

豊饒にして、價も極めていやし。

ユルシンスキ、黒龍江の岸にあり、小極あり、十二部の
地あり、文禄の年、二部の城郭を築き、

支那の疆と固め、けふより、小京と文禮
の使節と通ふ。

マクツキ、エハ河にあり、北極に近く、木柵と
り、地を城と爲し、土地魚を養ひ、ち
地は畑あり、ち人を農業とする
るも、カムニカトカ、と名に、此地の不穡なり。

今をオコツコイの酋帥と傳ふ

オシクミンスキ

ウエチンスキ 兼にレナ河にあり

オコツコイ 其他廣大なる事シベリ東北諸列

の最なるも、その北は氷海よりあり南はカムシカ

ツトカ河に臨む、其人を佛陀をよみ、其首

領を少極む十九度、ベラルスベルタより百十二

度より十三分、東よりあり、けり、舟通と云

舶と造りて、カムシカツトカにあり

ユカケリ、氷海の沿岸にあり

ツタツキ、シベリの東北の隅にあり、其人皆頭

鯨齒と稱す、其の時より、其穴を穿つ

オルトルスキ、カムシカツトカの東南にあり、此地尚

本國の服従せず、時々拒敵せし、近年に

近隣の諸列、東國の服従するより、

今を賦税をせしむる事なし

コレイキ、ゴシンスキ、此湾にあり、其他広

大なる所、其人は、其を遷移し、定住の所

ナシ、も俗に流る。極勇にして暴風なり。
人死す多しは、其處と焚く。レニギルを多く
産む。まことふ一万二子を負ふ。

ユテスキ、北極より西二十分ユテ河岸あり。
支那の境を接す。

アクランスキ、ベニシシ河岸にあり、北極六十分度
三十分にあつる。

アナジルスキ、東北の隅アナジル河岸あり、北極
六十分度、尚未タ全く知らぬ。服屬せしは、

地は多し、大なる山嶽あり。三面密林あり、一面
陸、残タル地と云ふ

イルクツキは、儒よてオムシカツトカニツふ、其地
に大河あり、カムシカツトカ河と云ふ、北極六十分度

二十分、其地より南に過て大東洋に流く、以て急に
其地よ名づけたるなり、曰わく、奥エツニ

糸セ、地なり、北ハシ一リ、其境を接す、又西
十九分、二十分、其地よ、フスクヤニツふ河あり、西に

たうま、そのベニシシスカヤの海濱に流く、此地經
て、わく、セキ、晴るる日よ、を申地あり。

なる一里許のほし小石の海にたりの連て
海に入る其ゆりも四六あり度さ二丈餘
沸騰しておひきくしく鳴る事あり又
声と揚し噴煙を濃き烟と起して二四
端りするまゝに足てさる振りたりあり温泉
の水面も蒸き物も浮きくるありまた
けを流るるもけら難し
地震海嘯ハ夜あり火山のありあけ
て海きしかり

氣候を一年の内八月のみなりぬみ方は
常に雪の深き大抵一丈二丈人の方を都
て雪なく夏の氣候ハ甚短く極よぬ教
を生を以て但子一テルホルトカムシカツトカ
畑を毛ほくるなり雷をなやせたり風坡
を常にありてはさまり死たり噴き霧うを
能てなきゆゑ高き價なりち人皮革及
魚獵して大に富をすはるものあり
え草カムシカツトカハ紫古よりふを極く

地なり。馬跡江此馬より。此を福したるなり
そ人。馬長大なり。其色ハ赤黒く。鬃此色
黒く。一々耳。西潤く。鼻尖り。目よ。く
眉よりす。一。密なる服。廣き肩。又脚ハ疲セ
たり。皆沿海の事。に似む。其飲食さば。め
て福く。若くする物此物。くひたる。蓋を其
中。掛ひま。く。ゆる。事。も。せ。と。よ。用。中。たり。
居。事。ハ。ち。を。四。つ。大。ほ。り。て。ま。よ。に。板。を。四。本
を。そ。屋。根。と。さ。り。り。ち。或。を。料。して。度。以。

上に四角なり。穴と一穿て。烟出し。ゆり。り
出入り。より。ね。り。あり。たり。赤。魚。鱗。と。業。を
了。衣服。を。獣。皮。と。用。中。家。具。ハ。石。或。を
鯨。此。骨。獸。角。等。と。さ。は。く。木。と。ほ。り。く
ほ。り。四。神。の。ぬ。く。り。て。り。ち。少。し。魯。西
亞。より。き。り。り。外。を。鉄。并。よ。そ。外。能。合。鉄。も。見
たり。ゆ。も。た。き。たり。木。と。お。ほ。く。木。は。て。旅。行。の
竹。ノ。雪。車。と。り。は。る。たり。り。
妻。を。と。何。也。も。二。人。三人。り。は。たり。密。夫

奸通を、つねの事になり、方風俗なり、
徳子たりしを、つたう、をと教すなり、
と、人、恥、恥、部、愚、陋、なり、
従、し、て、寛保より、元享、より、女、希、此
命にて、天、教、の、命、士、字、と、は、し
と、人、と、教、導、せ、し、む、る、所、を、見、し、自、ら、に
教、化、も、行、進、た、理、も、い、け、を、は、き、遠、か、ら
と、有、さ、る、良、女、氏、の、一、一、又、一、種、の
夷、人、者、クリ、レル、ス、の、カ、ム、シ、カ、ツ、ト、南、洋、近

傍の、鴻、ふ、位、を、大、抵、カ、ム、シ、カ、ツ、ト、此、物、も、同、
但、その、物、也、毛、の、中、に、在、る、と、是、た、る、と、す、女、
子、は、唇、と、思、く、一、男、子、は、唇、の、志、中、の、
を、思、く、一、男、女、の、耳、に、環、と、か、け、肘、
より、腕、ま、の、間、に、指、を、い、き、す、み、
す、一、衣、履、の、指、を、カ、ム、シ、カ、ツ、ト、カ、に、同、
飲、食、の、部、て、き、い、た、る、方、なり、魚、
肉、及、い、海、獣、の、肉、と、食、物、と、も、女、子、と、も、
教、一、罪、の、行、ふ、罪、の、神、と、イ、ニ、コ、ウ

ルニソふ、そをそふり、本とてはくけつてより
くけて、帝のこくく、数と教、皮とて
備へ、肉とて食ら、人死す、
雪比申、埋、夏ハ、中、に葬る、

魯西亜の此地とて、
元禄又、アクラワフ、一軍とて、
エカケリ、及、コレ、キ、
を大、服、
の七月に、
皮、三、
毛、
得、
年、
より、
諸、
享、
十六、
事、

元禄十三年、
エカケリ、及、コレ、キ、
を大、服、
の七月に、
皮、三、
毛、
得、
年、
より、
諸、
享、
十六、
事、

皮、三、
毛、
得、
年、
より、
諸、
享、
十六、
事、

賦税年々よふくサール。へーフル。狐。右之品
能く何れも一張は、つとてなるなり。

此地は、多量西亜の小城立地あり。

一ツを、ボルスタレツコイトソ、ボルスカヤとソふ大河

能く側より、ベニシンスカヤの海濱をさます事三

十三ウエルステシ、一ウエルステシ三百
五イ、女ありあり城の大きさ四方

四十九丈、ラコツコイ、通商の船先此地よりなる

集あり、故に高野の昌あり地なるなり。

二をラツフルホルトカムシカツトカニソふ、ホクソの

内此城をきくも、古ーカムシカツトカ、河原を

去る事六十九ウエルステシホルツケレツコイの小

二百四十一ウエルステシあり、倉廩武庫と

設く

三を子ーテルホルトカムシカツトコソふ、ラツブル

ホルトの昂位三百九十七ウエルステシカムシカツ

ト河口とさる事、三十ウエルステシ、城は廣さ

方二十八丈、周に木柵を構ふ。

四をアハツカニソふ、あせる四十年、元文
元年に速ル

今云
カイツ
カ

アハツカ河此港ありあり
五をテキルニソふ色くろまなる城なりテキル
河辺あり

此地の層岩極り多し、若きもの左記
ツルリス、流岩カムシカツトカ此南岸にむらりて
西の方^西に連綿して、^散発在る若きもの、^大
五鳥、^大釘く、^大石の、^大板と考へるカムシカツ
トカに附近の流るる魚、西亜に増え、^大きく
離れ、^大流るる、^大たのく、^大酋長ありて、^大記さる

又いづの地の地、^大層多し、^大又大山あり、^大日本
ニ交るる、^大石、^大又日本近傍の流るる
一種此毒草、^大附子とせ、^大根大、^大大昔の
めく、^大多、^大い、^大海夫、^大藍、^大名、^大此、^大矢、^大よ、^大ぬ、^大
て、^大敷、^大と、^大毒、^大は、^大ユル、^大フ、^大と、^大ソ、^大鳥、^大と、^大フ、^大ラン、^大子、^大ツ
テル、^大艾、^大を、^大り、^大つ、^大て、^大布、^大と、^大織、^大る、^大日、^大此、^大本、^大錦、^大
鉄、^大器、^大と、^大交、^大る、^大所、^大
又一大流ありて、その南此地を、^大相、^大前、^大と、^大い、^大
此、^大古、^大より、^大日、^大あり、^大上、^大麻、^大部、^大縣、^大邑、^大と、^大い、^大え、^大意、^大あり、^大

新前
カマシカ
カマシカ

又カムシカツトカより、海路はクナシク崎あり、
ユルブ、日本の之崎、日本の人すく、蝦夷と稱は、
ベリング大島の、大東洋のうらまに在り、カムシカツトカ河
口とをり、六十餘里なり、是る四十一年、寛保
船自カシ丹、ベルグス始く、此地より、つら、もよし
八月、此地に卒に、必忠に、も忠を以て、此地よ
急行く、度く、早め、里許、をサハ、二十ウ、元ス、ラシ
皆、思ふ、學、徹、なり、所、なり、地、産、海、産、皆、有
日、よ、は、崎、より、山、あり、雪、山、を、見る、言、サ

例る、四百九十六、大島、北、亞墨利加、山、あり、
千ヲ、メ、テ、崎、山、極、六、千、七、百、の、地、なり、

聖老環祖、^{セントウレンス} 亞細亞の、東、小、隅、あり、る、千、七

百二十八年に、ベリソズ、始て、は、地、より、つら、海、運、も、
た、く、人、を、紀、ゆ、忠、其、後、つら、ひ、も、地、より、つら、
ベリソズ、は、多く、の、崎、を、開、き、た、地、なり、
小、亞墨利加、の、西、北、辺、六、千、百、の、地、を、ひ、
つら、つら、千、後、ソ、キ、ル、コ、ウ、なる、もの、又、小、亞墨利
加、れ、西、北、六、千、五、百、の、地、を、ひ、つら、つら、又、お、七、百、六、十三

年 宝曆十三年 本國より船を發し氷海と越て
ツクウキの北に頭七十四度の地と曆て又南
にむらひ一の海峡とある是北亞墨利亞の
西境に亞細亞の東小に既の海峡に又六
十四度及北海より多くの砂を聞きかて
ちんよきあつて皮革と製して交易と為
しむベリングス島に惣目と置て是と所置
せしむ其地を熱帯とてアルクニ下流流る
小亞墨利亞の曆せ地なり

アリト流る

此海峡とほてより後ハ常に此海流と流る
すり事なるはあつてはあ大湖の所終る中
里より隔てて内は多く流る方ゆゑ大船
にては流るへうは且亞墨利亞の人は今は
歐羅巴の文化をてむし如く殊異不備
此流るもあつてはは小船を用ひては怖る
つて事ありあつては上には説くゆくを來
大難難し一り及び東方諸國に道する海流と
開きかて魯西亞の氷海より船と發し

ク、センブラ

りの海岸に流れて、をくカムニカトカにいつく始
て、^{ハセシ}新憎白蟻の將なる事と明白に知る始
なり、但此海流も流るも艱險なり、氣候極め
て之を、常に層氷をけす、又瀬勢もわきわき
あり、突風変乱、初は十進は全船蓋粉也
たも、只海流此をなす、シベリの頻海の地は
時々、風濤のそめに害を受る事多し、
高葛山、狹の地と、小高海と、黒海との間を
亜細亞、欧羅巴の界の処、在ト、河は際し

熱河、尔入亜に接し、地勢万形、之に従横三
百里許、大小鞆鞆より、互に高を極し、地也、
あせり、二十二年、^{享保}ベテル帝、此地を併せ
たも、^{キリ}年、^シ學

^シ正、^ル京、^カカ、^シ正、^イ印、幅負百二十餘里、一はと魯西亞に
流し、一はと契利年、^キ年、^リ年、^シ學
と俗を田獵、農耕と業とし、又畜産を艱し
け、地の婦人、極め、美膚あり、常に新衣
を衣裳と制し、糖の飾る、四、^シ法、^シ法、^シ法、^シ法

宗氏、又良馬と産良、其法も、健俊の價も
まこと甚きなり。

クバン、アソウの西隅に在り、^{ドル}度尔格の所屬
にて、魯西亜の手にありし、^{ベテル}帝
此之紀より、^ア女帝カ十の時、^ア七の年、^保年
輯に在りて、強て服従せしめり。

カハル千子、^ア亜私を憐耳のを侍りあり、^ア大尔二郡
よありし。

タゲスタン、小高海岸あり、百尔西亜の境と

接し、古人四の法を在宗氏、此地にて本國の
百尔西亜の、大なるを為し、その貨物、小高
海より船を轉輸するなり。

魯西亜人物

其人長大にして、容儀端正也、其性恭敬
和順にして、志も勇壯果敢事も臨人々
勤せし、飲食も甚き、^ア菜、^ア麦、^ア葱、^ア於此
魚、^ア蝦、^ア鷹、^ア焼、^ア耐、^アと常此飲する、^ア午膳
此後、^ア昼、^ア寐、^ア敷、^ア割、^ア又、^ア温、^ア陽、^アに浴し、^ア初、^ア弱、^ア此

よめを、お行せしめて食を消せしむ。若くは人
を煙を喫せしむ。た鼻烟を用ふ。軍人の
煙草を喫見す。て焼酎及つらき酒と嬉
ぶ。常に栄居るを好まず。他邦へ行く
事と執しむるもの、ぬき、篤実玉燄、死
にころす。変せざるものと撰く。申ふ、六十
餘年矣。邦と偏居して尚帰らざるものあ
らざる事と受けしれを、やまず。其事とな
し、ゆき、そのもの、たも、重く、奉む。いらる、こ

服、入尔馬泥亞拂昂察の、割と用ふ。あ
らざる事と受けしれを、やまず。其事とな
し、ゆき、そのもの、たも、重く、奉む。いらる、こ
爾中、旅人を、禁と制らる。
家、ふる、治由と設く。
行路、互に、礼讓とせらる。こ、あ
屋室、若く、多く、無む。伯叔室、若く、あ
は、詳なり。あ、あ。
言、汝ハ、レスラホニヤの、治より、を、轉し、る、なる。
今、た、カ、西、亞、治、と、新、え、用、ふ、

文字ハ二十四字あり

後身魯西亜に船海の事なりしころや
ベテル帝比時よりつとめて船海の法を調練
せしめて術にそとくたれし主後女帝ア
十姉時よりして水戦陸戦ともそ法に
熟練せし今度尔抜韃靼の強敵を
斬る文戦一王海サバキセ海の大戦と強
てしそ法とゆらりしなり所もふせむ
三十九年 元文凱旋せしとれ再ひは海よ

戦

永此此形ともしきしとひとたり

女帝ア十崩下り時、種々制令と造初
し女帝エリサトの時よりして西風を改
め古俗をふえそ新法と布きほこしめ
てしそ風俗も移ふに善良に務めし尚今
女帝カタリ十の時よりして漸くよ古
地も度より教化も日よ益昌たり古
は婦人の服高きたりけたりしにべ
トル帝、入尔馬泥亜の服と用ひて風俗と

字をくむ。但し白糖と用ひて、西名の赤き
と、こぼして黄なりうらふ。

麦法

尼カ西亞キリヤスの麦法と云ひて、あか百七年、西に
尼カ西亞の麦化と云ひて、漢新可烏よ、
麴と建てて、

山吹に名をけり。法を羅馬人のみし。但其
吹の吹くく、水と灌ぐも、才と水と浸れと
矣なり。こす、年昔の人の化麦と云ひて、

名とあつたありと、先新教師此法を秘事四十

二、百を後かの麦法と改るなり。時其人と係りて、はよ

五五古古麦法と控て、アままささるる志志ししととす。け條詳なり。此
後て、漢新可烏の

手後布山此服と衣せ、口袖とぬり、蠟燭とまに

持せしむ。持せしむ。七名の官、自色のお魂とわり、

弟のりよ水と浴して、名と改る。是も亦へ元帝、

い、手法と改りて、まゑとす。本せしむ。い

本、又手法と易る事なり。い、手
姑く、願く、い

習業

宗教書法と、学ふ事とをきくといふべテル帝の
時、改羅巴法由り、有名の學士とて、
漠新可鳥の、學授と建て、世後と教をす
とせしむ。又名山の言説とて、年初のもの、ハ
先友教の學とて、おむ、當る學業、永久に傳
人なりん事とて、之ひく、キラウ及ひ、べテルスベルク
ル、學授とをきく、多く書體を設け、法由の典
籍とあつめ、大に合し、人々に益ある書と
いふ、く、國内は、刊行せしむ。又千

持

七万二十四年、享保九年正月に入、尔馬泥亞、雪原亞
拂、帛擦り、幣札を厚くして、有名の師儒
とむ、之、印庫の書、二子部をとり、内より
採擷して、万藝、竅理の書と編せらる。
又百工の仕度と改けて、業と習し、人々
企ありし、いま、終らざる内、お立ふ、七万二十
六年、享保十年に崩し、り、女帝、カタリナ、即位
ありて、その志しと、續き、あせる、二十六年、享保十一年
に、學授とく、加、就、其、世、兼、い、ん、か、も

たし一歳のうちに費用二万四千九百十二ルツテルス
金銀圓方 字未洋 たりとて、千学四料とて、所謂星学、
史書学、窮理学、夜取学なり、其下に師儒
各共生徒と考、試して健進する者、此名とて
して、又百之の位、院より、その活板の多きを
語典、強と刷、京一、并に書と綴、多しとて、学とて、
又、玉之石、玉、凝、工、其、地、百、之、と、表、唱、へ、も、費、用
毎年、二万八千二百八十六ルツテルスなり、
又、学校
の費用、金とて、一万三千二百九十九ルツテルス、

此教育によりて、学術、巧藝、も、興、盛、と、成、る
之の、口、は、昌、人、なり、と、て、

又、ヘラルス、ヘルク、の、学、校、も、表、科、表、科、と、も、る、治、科、
以、り、に、お、原、 醫、科、疾、病、と、療、す、 道、科、表、化、と、興、
り、と、も、る、 乃、四、科、と、わ、ら、ち、日、夜、原、精、研、究、せ、し、め、ら、る、
よ、七、百、二、十、二、年、寛、保、二、年、 其、迄、作、成、書、目、と、点、
視、す、る、に、醫、科、道、科、の、書、一、万、四、百、八、十、七、部、
國、事、と、記、し、る、書、二、万、八、十、二、部、と、し、て、ま、る、こ、の、
七、百、十、四、年、弘、治、四、年、 宝、庫、を、建、て、大、蔵、人、の、

西亜より帰し、^{元亨}高令女帝カタリナは子
七十四年、^{延享}の七月、^{元年}に降誕ありて、
あせり六十二年、^{宝曆}に即位す。

兵制

魯西亜帝隨身兵は約二十万、千七
三十二年、^{享保}女帝アナテルスベルグに教場と
設く、^{十六年}軍師を乞ふて、操練せむ。又
ベテル帝、高、所徳海を、十二の戦艦
を造りて、水軍と準備す。第一号の船九隻

第一号の船二十
隻、第二号の船二十、銃五十、第三号の
船十隻、第四号の船二十、銃四十、第五号
の船十九隻、第六号の船二十、銃三十四、第七
号の船九隻、第八号の船七、銃二十四、火
船四隻、快船十隻、捕盜船五隻、合して
軍士万八千、鳥銃二千、ある、^兵と一隊と、^兵
本國より、^兵と造るるを、^兵と、ベテルスベ
ルク、及びアルカニケルに、多く、船通と集め、^兵

一、船と造りしむ、女帝カタリ十の時、軍
 船一百四十隻と造り、軍士二万人と乗せ、又
 乗せる者十六隻に、軍船二十四隻、快船七隻、駁
 船三隻、飛船四隻と造り、水軍一万と増備す
 今又、一、テリス、ヘルク、モ、軍船百隻を造り、海
 一、をり、ニ、常、に、二、子、方、西、ル、ス、を、以、て、軍、実
 に、備、一、分、を、預、費、し、充、て、一、分、は、糧、食、に、ケ、ス、テ、ム
 ベル、テ、ビ、ナル、陸、軍、の、物、ケ、イ、ズ、ル、レ、イ、キ、ト、ノ、イ、子、ニ、未詳に、充
 て、一、分、を、鉄、ホ、ツ、ー、ア、ス、灰、け、の、石、未詳、大、黄、黄、青、港、青

魚油等の價は元は

交易

此邦もつとも交易とす、す、凡、貨、物、と、他、邦
 に、相、ら、う、よ、先、本、國、の、貨、物、と、品、換、し、他、邦
 の、風、土、を、考、て、そ、の、珍、産、品、を、以、て、品、物、と、名、
 して、相、ら、う、致、す、を、要、す、と、し、乗、る、者、十、六、年、曆
 年、に、交、易、を、始、め、し、令、言、三、百、四、十、三、方
 六、百、十、四、ル、一、ル、ニ、シ、ル、也

歐羅巴諸國、本國と互市する者、請入利、
 西

を第一とて斗交のほ、他邦は矣なりて
次ハ子一テルヌドハシステ一レン弟那^{の地}るるか
等の交めとりつとも盛なりこと、さ互市の
場^トズテルスベルクと最なり

支那の交めハま^と輪^しさるなり、貨物と送
るに防寇軍とつくは、フカラテ契^キ利率^{リム}年百
ル西亜等の互市も利と好なり、廣大なり、
冬ハ雪車ともはて貨物を轉送也

魯西亜志終





坂
上
久
吉